

平成26年度 学校評価書

総社市立総社小学校
校長 上岡 仁 団

1 自己評価

I 評価結果

(評価書別紙参照)

II 分析・改善方策

1 心の教育の充実

- ① 道徳教育、人権教育を充実することにより、児童が気持ちのよいあいさつや思いやりのある心を生活の中で実践することができるようにする。
- ・ 品格教育のテーマに沿った道徳の授業を毎月行ったり、全クラス参観日で道徳の授業公開をしたりすることにより、道徳教育の充実に努めることができた。
 - ・ 6月の「いじめについて考える週間」や11月の「校内人権週間」等を中心に「いじめ0 みんな笑顔の 総小っ子」を合い言葉に人権学習等に取り組むことができた。
 - ・ あいさつについての週目標を毎月設定し、繰り返して指導に取り組んだ。計画委員会や生活委員会のあいさつ運動や家庭でのあいさつチェックの取組なども実施し、地域でもあいさつのできる児童が増えてきている。
 - ・ 各学年、年間17時間のSEL・ピアサポートを実施した。きょうだい学年や縦割り班での異学年交流の場を度々設けることや同学年サポートの場を意図的に設けることにより、思いやりの心を育むことができた。

2 健康・体力づくり

- ② 健康教育・特別活動を充実することにより、児童が基本的な生活習慣を身に付けるとともに、目標をもって最後まで活動に取り組むことができるようにする。
- ・ 基本的な生活習慣を身に付けることができるよう、特に睡眠を取り上げた。年7回「すいみんチェック週間」を設けたり、「成長期における睡眠の大切さについて」という演題でPTA教育講演会を開いたりすることにより、睡眠時間を確保をするように啓発した。保健委員会による紙芝居や睡眠についての授業により児童の意識を高めることができるようにしたが、十分な成果を上げることができていない。アンケートにより早寝早起きについての詳しい実態把握を行い、具体的な対応策を検討していきたい。
 - ・ 運動会や学習発表会等全ての教育活動において、児童の実態に応じた目標を持つことができるようにした。また、全校をあげてチャレンジランキングに挑戦したり、長縄跳びに取り組んだりすることにより、体力づくりとともに、クラスの目標に挑戦させることができた。

3 確かな学力の向上

- ③ 協同学習の視点を取り入れた授業改善により、児童が進んで学習に取り組むとともに基礎学力を身に付けることができるようにする。
- ・ 協同学習を取り入れた授業改善により、友達と積極的に関わりながら進んで学習に取り組むことができるようになってきている。また、児童が意欲的に学習に取り組むことができるように、ICT機器の活用を図った。全ての教師が研究授業を行い、分かる授業づくりに努め、成果を上げている。「だれもが行きたくなる学校づくり」事業のサテライト研修会や「デジタル教科書活用研修会」でも授業公開を行い、総社市全体の研修の場を提供した。

- ・ 朝学習の時間に「東中ブロックきらめきプリント」等を活用して、基本的な計算や漢字の読み書き等の指導に取り組み、基礎学力が向上した。

4 開かれた学校づくり

- ④ 各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開により、積極的に情報を発信する。
 - ・ 校長室便り、学校便り、学年便り、学級便り、図書便り、保健便り、学校保健委員会便り等をタイムリーに発行するとともに、ホームページの更新に努め、学校からの積極的な情報発信に努めてきた。また、学校行事や学習活動を積極的に公開し、保護者や地域の方の理解と協力を得るよう努めることができた。
- ⑤ 家庭や地域との連携を深めることにより、児童の安全・安心を確保するとともに、家庭学習や読書の習慣を定着させる。
 - ・ 集団登下校を徹底させ、教員による登下校指導をたすきボランティアの方と協力しながら毎日行い、児童の安全・安心を確保することができた。
 - ・ 家庭での読書を習慣づけるため、家読週間を年7回設定し、家庭読書の啓発を図った。家読週間の感想等を学年通信等で知らせたり、週末の宿題に読書を加えたりすることにより、読書習慣の定着を図ったがまだ十分とは言えない。宿題の音読カードに読書の項目を設けることにより、一層の意識付けを図っていききたい。
 - ・ 「家庭学習の手引き」を作成し配布することにより、指導の徹底を図った。1日の家庭学習の時間の目安「学年×10+10」分が達成できていない児童はいるものの、ほとんどの児童が毎日の宿題はきちんとすることができている。

2 学校関係者評価者名

井上 憲司 (有識者)	加古川 聡 (PTA会長)
諏訪 英広 (有識者)	親 健一 (PTA副会長)
加藤 辰彦 (主任児童委員)	小川 礼子 (PTA副会長)
宮本 由里子 (地域住民)	

3 学校関係者評価

1. 心の教育の充実

- ・ 学校内での気持ちのよいあいさつができる児童が増えてきている。気持ちのよいあいさつが地域の中にも広がるよう、学校・家庭・地域が一体となって取り組んでほしい。
- ・ 学校行事に児童が主体的にかかわっていることが、目標をもって最後まで活動する児童の気持ちを支えていると思われる。
- ・ ピア・サポートや異校種間の連携などの取組は、児童の心を支える取組にもなっていると思う。
- ・ 道徳、人権教育は塾や習い事では身に付かない人間にとってもっと必要な感性だと思う。学校・家庭・地域の大人たちが協力して教え、時には見本とならなければいけない。
- ・ あいさつなど、児童にもわかり易い総社市全体の品格教育を一層推進してほしい。

2. 健康・体力づくり

- ・ 子どもの健康・体力づくりを向上させるための様々な取組に敬意を表する。
- ・ 限られた時間の中での睡眠時間確保の重要性について、様々な角度から周知していく必要がある。
- ・ 熱中症対策とともに、防寒対策や感染症対策にもさらに取り組んでほしい。

3. 確かな学力の向上

- ・「きらめきプリント」のような研究を重ねた質の高い教材，協同学習，ピア・サポート，ICT機器の活用など，児童の興味・関心を引き出し，仲間とともに学ぼうとする意欲を喚起する様々な工夫や取組に敬意を表する。
- ・ゲームやスマホの使用状況と学力と関係があると思われる。本来は，親が家庭で子供に弊害を説いたり，使用のルール作りをしたり，教え指導すべきことだと思うが，21時以降の使用禁止という県のルール遵守など，引き続き，学校と家庭が連携して取り組んでほしい。

4. 開かれた学校づくり

- ・積極的な情報発信については，数多くの便りの発行やホームページの更新などで十分行われていると思われる。保護者の知りたいことや不安に寄り添った工夫が期待される。
- ・保護者・地域の方々のボランティアに加え，中・高・大の生徒・学生さんの協力に感謝したい。

5. 設置者等による学校への支援

- ・たすきボランティアの増員か，それに代わる人材の確保に取り組んでほしい。PTAでも取り組むが，難しい面が多い。
- ・夏の熱中症には，市内各学校で徐々に冷房などの対策が進んでいるが，冬の感染症対策に加温・加湿の器具の配置をお願いしたい。
- ・児童の安全を守るため，また学習環境をよりよいものにするために，学校の建て替えを推進してほしい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

本年度の成果と課題をふまえ，学校経営目標をより高いレベルで実現することを目指して，来年度も同様の学校経営目標を設定する。

- 1 心の教育の充実
- 2 健康・体力づくり
- 3 確かな学力の向上
- 4 開かれた学校づくり